

■Society5.0 に向けた人材育成

6 月 15 日に第 3 期教育振興基本計画^{※1}が閣議決定されました。閣議決定後の記者会見で林文部科学大臣は次のように語っています。

第 3 期計画においては、人生 100 年時代、Society5.0^{※2}の到来に向けて、「一人一人の『可能性』と『チャンス』を最大化すること」、これを今後の教育政策の中心課題に据えたうえで、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成」など 5 つの基本的な方針を設定し、方針ごとに、合計 21 の目標と進捗状況を把握するための指標、必要となる施策群を整理した。

また、同時期に「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる学びが変わる～」^{※3}と題して今後の教育の方針についても文部科学省から報告されました。その報告書の中では、学校の在り方を 3 段階に分けて整理し、第 1 段階を「学校 ver. 1.0」、第 2 段階を「学校 ver. 2.0」、第 3 段階を「学校 ver. 3.0」としています。

「学校 ver. 1.0」は「勉強の時代」と名付けられています。「教員が学校で子どもたちに一斉授業を行い、知識再生型のペーパーテストで評価する」という従来の姿で、知識を正確に記憶することや計画を確実にこなす正確さが求められました。これは高度成長期の工業社会、“Society. 3.0”の学校の姿です。

「学校 ver. 2.0」は「学習の時代」と名付けられています。「自分自身の文脈で情報を編集し、協働・対話を通じて新しい価値や納得解を生み出す力」を育成することを目指し、カリキュラムが「知識の体系」から「能力重視の体系」へと変わりました。また、「主体的・対話的で深い学び」が求められ、能動的な学び手（アクティブ・ラーナー）を育成することに目的が置かれました。これは情報化社会、“Society. 4.0”の学校の姿です。

そして、“Society. 5.0”の学校の姿である「学校 ver. 3.0」は「学びの時代」と名付けられ、キーワードとして「個別最適化された学び」と「学びのポートフォリオ」が示されました。



■「個別最適化された学び」

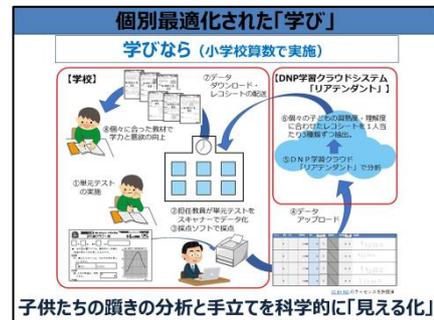
「個別最適化」をファッションの世界に例えてみます。ファッション通販サイト「ゾゾタウン」では、サイトでお気に入りのファッションを探して購入するという流行の先端を追いかける楽しみがある一方で、「自動採寸用ボディースーツ」で自分の体にフィットした商品を購入することができるプライベートブランドがあります。顧客がボディースーツで測定したデータを送ることで、自分のサイズに最も近い商品が発送されてくる、という仕組みです。

「人が服に合わせる時代から、服が人に合わせる時代になった」ということでしょう。

教育の世界でも同様に、子どもが教育内容や教育レベルに合わせるのではなく、教育内容を子ども一人一人に合わせる時代になっていくと考えます。塾などの民間教育機関ですでに

行われている e ラーニングによるオンライン授業は「いつでも・どこでも・自分の学びたいことを・自分のペースで・好きなだけ繰り返して見ることができる」という意味で、「個別最適化された学び」と言えます。

一方で、個々の学習の成果・定着を分析し、課題を見つけて対応していくという学びも「個別最適化された学び」と言えます。それが、奈良市が全国に先駆け実施している小学校算数での「学びなら」です。一斉に行う学習ではありますが、その内容は一人一人の学びの課題を分析し、その課題に合わせた学習を進めることができるように設計されており、このような学びは「未来の教室」につながる取組であると思います。



■「未来の教室」

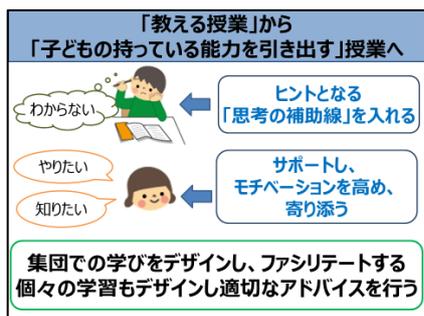
「未来の教室」という言葉は、文部科学省と並行して今後の教育の在り方について議論を進めている経済産業省が、6月に示した『「未来の教室」とEdTech研究会^{※4}と題した第1次提言の中で登場しています。これは、超スマート社会になっていく未来社会で行われるAIやビッグデータ等の新しいテクノロジーを活用した教育はどのようなようになっていくかを示した提言で、その中にはある中学生の1日の生活をイメージ化して説明した話がありました。

中学生のAさんは、ニュース番組で見た「日本の農業イノベーション」という話題に興味を持ち、午前中に農業高校で行われるAIやロボットを活用するSTEAM^{※5}の探究プログラムに参加した。オンラインで繋がれた企業のエンジニアや大学の研究者との会話は、理科嫌いのAさんにはほとんどわからなかったが、午後はこの話についていけるよう、まず理科の教科書を勉強しようと思い学校に行く。学校では、講義動画やAIの内蔵されたEdTech^{※6}を用いて自習するが、高校の生物や化学の範囲まで興味に合わせて教材が提示されてくるので効率よく勉強が進む。この時の「先生」はスマートフォンで見る講義動画の中のカリスマ塾講師と学校の教員の両方。「もっと知りたい」という気持ちが強くなったので、興味がなかった理科も最近では楽しくなった。

このような学校、学びになっていくであろうというイメージです。

■「未来の教室」での教員の役割

このような「未来の学校」で教員はどのような役割を果たすのでしょうか。子ども一人一人の「分かった。」や「もっと知りたい。」に対応するには、分かりやすく教えるスキルも必要ですが、教えずに思考の補助線を引くことや、モチベーションを高めたり、見守ったりするという寄り添う力も求められます。子どもたちの学び合いをファシリテートすることはもちろん、一人一人に応じた学びをデザインし、適切なアドバイスができる力が必要となります。



「未来の教室」で教員に求められるのは、このような「個別最適化された学び」のまとめ役（ラーニング・オーガナイザー）としての役割、つまり、個々の学びと授業における協働学習をデザインし、プロデュースするという役割です。

■「教え」から「学び」へ

学校教育は「勉強の時代」、「学習の時代」、「学びの時代」へと移っていきます。「学びの時代」とは子どもが主体的に学ぶ時代です。それはまさに奈良市が掲げている、「未来の地図を描き、自ら前へふみ出す」学びです。

このような「学びの時代」では教員自身も学び続け、変わっていかねばなりません。「学びの時代」の教員としての資質・能力を磨くという視点で研鑽を積んでほしいと思います。

- ※1 文部科学省ホームページ「第3期教育振興基本計画」
<http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1406127.htm>
- ※2 サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において日本が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。
- ※3 文部科学省ホームページ「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会」
<http://www.mext.go.jp/a_menu/society/index.htm>
- ※4 経済産業省ホームページ「『未来の教室』とEdTech研究会の『第1次提言』がまとまりました」
<<http://www.meti.go.jp/press/2018/06/20180625003/20180625003.html>>
- ※5 科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）の頭文字を取ったSTEM教育に芸術（Arts）を取り入れて行う理数教育。
- ※6 EducationとTechnologyをかけた造語で、教育の現場にAIやビッグデータ等の新しいテクノロジーを持ち込んで活用する取組。